

令和7年度 中部教育事務所管内いじめ問題子供サミット

令和7年度 いじめの未然防止に関する取組推進校

- 宮崎市立赤江小学校
 - 宮崎市立赤江東中学校
 - 宮崎市立清武小学校
 - 宮崎市立清武中学校
 - 日南市立北郷小学校
 - 日南市立北郷中学校
 - 日南市立北郷小中学校
 - 宮崎県立佐土原高等学校
- 【推進校7校:掲載順不同】

グループ協議で児童生徒から出された意見を紹介 (意見の一部を抜粋しています)

いじめを生まないために
自分たちができること

- ・「ちがいを尊重する
- ・それぞれの考えがあることを理解する
- ・「いじめ」について理解を深める
- ・上下関係のない関係づくり
- ・一人が取り残されてしまうような環境をつくらない
- ・自分たちが、いじめを「見過ごさない」

学校や社会に
協力をお願いしたいこと

- ・様々な人と関わる機会を増やしてもらうとよい
- ・いじめについて教える、考える環境づくり
- ・寄り添ってくれるような居場所、環境づくり
- ・学年を超えた交流(話し合い)の場の設定

今年度、県内22校を「いじめの未然防止に関する取組推進校」とし、各学校でいじめの未然防止に関する取組を推進していただいております。そのうち、中部教育事務所管内の推進校7校(参加児童生徒15名)が参加し、「管内いじめ問題子供サミット」を、8月19日(火)に県防災庁舎にて開催しました。また、オンラインでも約40校が視聴参加しました。

サミットでは、まず、推進校7校が各学校の取組を紹介する『実践発表』を行い、「児童生徒が主体となった」様々な取組が紹介されました。実践発表後には、「協議」が行われ、テーマを「いじめを生まない環境づくり」と設定し、いじめを生まないための様々な意見を共有することができました。

様々な意見が出されていましたが、子供だけでなく、我々大人も一緒に、「じぶんごと」として考え、実行していくことが何より大切です。

参加いただいた児童生徒のみなさん、学校関係者の皆様、本当にありがとうございました。



みやざき教育DX EXPO2025

GIGAスクール構想の進展によりICT環境が整備され、児童生徒の「個別最適な学び」が進められる一方、教職員の働き方改革も喫緊の課題です。校務のデジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進は、教職員の負担軽減を図り、児童生徒と向き合う時間を確保するために不可欠であると認識しています。

本県では、この推進の一環として、8月26日に「みやざき教育DX EXPO 2025」を開催しました。このEXPOでは、今後の学校像を見据えた最新のテクノロジーやICT活用事例を紹介しました。講演や実践発表、各企業によるブース展示を通して、生成AIやICT機器の具体的な活用方法、最新動向に関する多くの知見を得ることができたことと思います。その中で、児童生徒の情報活用能力を高め、個別最適化された学びを実現するために、ICT機器を効果的に使う必要性も強く強調されていました。

この取組は、令和6年9月に出された「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会論点整理」が示す方向性、すなわち多様な児童生徒の学びを実現するための教育DXの加速化を目指すものです。校務DXは、教員がより創造的で本質的な教育活動に注力できる環境を整え、最終的には児童生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出すことにつながると期待しています。

本教育事務所としても、今後も引き続き、各学校における校務DXの取組を積極的に支援してまいります。先生方の積極的なご活用と、校務DXを通じた教育活動のさらなる充実に御理解と御協力をお願いいたします。



【お知らせ】裏面 中部教育事務所だより「絆」9月号②もぜひご覧ください。



エリア研修(指導力向上研修)を実施しました。

各学校の特別支援教育コーディネーターに中心になっていただき、「指導力向上研修」を実施しました。この研修は、すべての教職員を対象に特別支援教育に係る基礎的な知識の習得と指導力の向上を図ることを目的に行われ、飢肥小学校、宮崎中学校には、実践発表「UDハンドブックの活用」をしていただきました。その後、学校ごとに、日々の授業の振り返りを行い、今後の取組を決めていただきました。

研修を運営していただきました各学校の特別支援教育コーディネーター、実践発表をしていただきました飢肥小学校、宮崎中学校の皆様、ありがとうございました。

本研修での学びを日頃の実践に生かしていきましょう。

★ 研修に参加された方の感想を紹介します。 ★

- 講義内容やチェックシートでの振り返りを通して、実践が不十分なことや、実践できていないことを確認することができた。学年間で話し合い、それぞれで実践していくことや、学年で共通して実践していくことを決めたので、まずは決めたことから実践し、さらに自分で実践を増やしていきたい。
- UDハンドブックを基にした授業づくり・環境づくりについて、実践事例をもとに具体的に学ぶことができた。日頃から、できることに少しずつ取り組んでいるつもりではあったが、改めて事例を見て考えると、まだまだ取り組めることがあるように感じた。この研修で学んだことを、今後の指導にいかしていきたい。
- 年に1回でも、じっくりと、全職員でこのような研修を実施し、定期的に自身の取組状況を振り返り、チェックすることで、理解が深まり、実践力も高まっていくものと感じた。全職員で、子供たちを誰一人取り残すことなく、満たされた学校生活が送れるように支援していきたい。

メンタルヘルスの相談体制

近年、全国的に教職員の心身の不調を訴える声を耳にする機会が増えました。そこで、メンタルヘルスサポートを提供する相談先を御紹介します。

<学校職員健康づくり推進事業 メンタルヘルスの相談体制>

※○は本県の事業、★は公立学校共済組合の事業、○★は県と公立学校共済組合宮崎支部との共同事業

※詳しくは、公立学校共済組合宮崎支部のHPをご覧ください。

○教職員相談室…場所:県立図書館

相談時間:火・金 12:30~17:30

土曜 10:00~15:00

○アウトリーチ相談支援

学校に勤務する新規採用職員に対し、年に2回教職員相談員が学校を訪問し、相談支援を実施

○★臨床心理士相談室…場所:県立図書館

相談時間:第2・第4日曜 10:00~15:00

○★臨床心理士出張相談…所属からの依頼を受け、各所属に臨床心理士を派遣

★電話・面談メンタルヘルス相談…電話相談は通話料無料、

面談は1回の相談50分程度で5回まで無料(要電話予約)

★教職員電話健康相談24…24時間体制の電話相談(通話料無料)

★医療機関によるメンタルヘルス相談…専門の医療機関での相談(県内7医療機関)、相談料は無料

★メンタルヘルス相談(九州中央病院)…九州中央病院での相談(3回まで無料)(要電話予約)

★女性医師電話相談…女性を対象とした女性医師による健康相談窓口(通話料無料)

★WEB相談(こころの相談)…専用Webサイト上での相談窓口

★介護電話相談…介護全般に関する電話相談窓口(通話料無料)

★LINEメンタルヘルス相談…公認心理師、臨床心理士等が無料で相談に応じる

○教職員相談室について

・教職員相談員を配置し、県立図書館内にて面接相談、電話相談、メール相談の他Zoomによりオンライン相談を受け付けています。

・対象:教職員、職場の上司、同僚など

◆もしよろしければこちらのQRコードを読み取っていただき、「9月号」の御感想をおきかせください。



問合せ先:中部教育事務所 Tel (0985) 44-3322

(担当:濱砂) 代表アドレス chubu-kyoiku@pref.miyazaki.lg.jp

中部教育事務所は、「ひなたの学び」を推進しています。